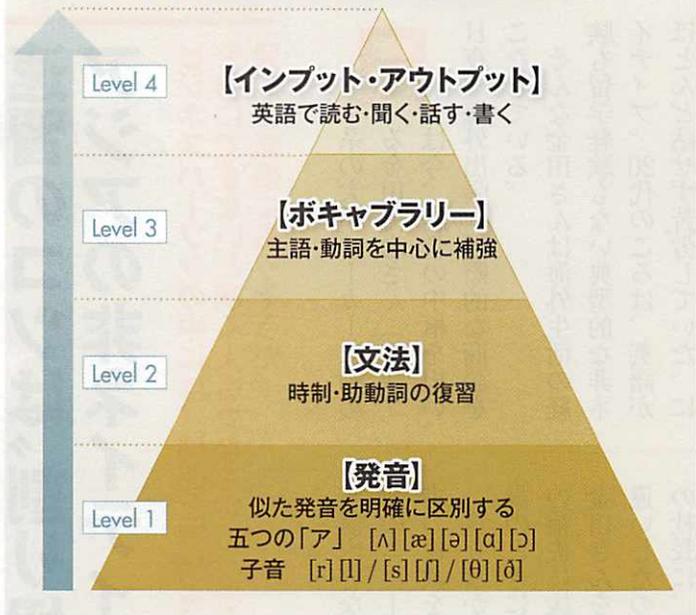


まず発音

2-4 齊藤氏が考える英語学習の優先度



5母音6子音の発音が最優先 これがイェール式最速学習法

超名門校、米イェール大学の元助教教授が英語塾でイェール式の学習法を教えている。「一定の答えが出ている」という非ネイティブのための英語学習法とは。

応 用言語学の世界では、英語習得の最短ルートについて、一定の答えが出ている。英語塾「J.P.R.E.D. 齊藤」の齊藤淳代表はそう語る。齊藤氏は、かつて世界的な超名門校、米イェール大学の助教教授を

務めていた。そして当時、その「答え」に沿った語学授業を体験した。さらに、そこで学んだ非ネイティブの学生たちが、1年後には流ちょうに外国語を話せるようになる様子をの当たりにしたのだ。非ネイティブの中でも英語が苦手といわれる日本人が、この「答え

を英語学習に利用しない手はない。ポイントは大きく二つある。一つ目は、日本人が苦手とする発音を、まずは克服することだ。「最初に英語学習のボトルネックを片付けてからでも遅くはない」と、齊藤氏は説く。齊藤氏は、日本人が苦手な発音と

して5母音6子音を挙げる。5種類のア [ʌ] [æ] [ɛ] [ɑ] [ɔ] と、区別が難しい3組の子音 [r] と [l]、[s] と [ʃ]、[θ] と [ð] のことだ。

この5母音6子音を明確に発音聞き分けができれば、スピーキングとリスニングは格段に上達する。「日本人の多くは英語の「truck」という発音を聞くと、日本語の「トラック」に変換して、それから競技場のトラック (track) か、車のトラック (truck) かと考えてしまふ」と齊藤氏。聞き分けられれば、自然に英語を判別でき、効率的に英単語を覚えられるようになるという。

また、イェール大では発音矯正プログラムがあり、音声学の専門家が、日本人のクセに合わせた舌の位置まで指導してくれるという。非ネイティブに適した学習法のもう一つのポイントは、シーンに合った英語を体たたくこと。特に、時制と助動詞の復習がオススメだと齊藤氏は解説する。時制は「現在完了形がいい例だが、日本語の概念と違う。英語の景色」がある。そして、助動詞をマスターできれば、英語の細かいニュアンスを習得できるからだ。これには「動画を使った学習が効果的(齊藤氏)」という。どうい



齊藤氏は現在、英語の発音を吹き込むと採点してくれる、発音矯正アプリを開発中だという

うシーンで現在完了形や助動詞の使い分けがされているかを意識的に学ぶと、日本語との感覚的な違いを体で覚えるというわけだ。最終段階としては、英語を使った情報のインプット・アウトプットに挑戦してみよう。ここでも動画が活躍する。一例として、齊藤氏は映画の5分シャドーイングを挙げてくれた。セリフのすぐ後について音読をするのだ。英語のリズムとイントネーション、そして発音の学習にもなるという。グローバルビジュアルとは別のアプローチではあるが、「自己流でもとにかく伝える英語」を卒業したら、学問的に体系だった、非ネイティブのために作られた英語習得の「答え」を、実践してみたい。